

平成22年度市民と市長のまちかどトーク 開催概要

- 1 日 時 平成22年8月29日（日） 14：30～16：00
- 2 場 所 ロビンソン小田原店 4階ギャラリー
- 3 開催テーマ 「生ごみを資源として考えよう」
～生（いき）ごみ小田原プロジェクトについて～
- 4 参加者
 - （1）一般市民：80名
 - （2）市側出席者：市長、加部副市長、大野副市長、環境部長、環境部次長、
環境政策課職員ほか2名、広報広聴室（事務局）
- 5 意見交換の一覧
 - （1）段ボールコンポストの周知に 1
 - （2）段ボールコンポストの取り組みについて..... 3
 - （3）ごみの減量化の入り口を段ボールコンポストに絞らないでほしい..... 4
 - （4）ごみの回収について..... 5
 - （5）NPO堆肥化協会に参加した際のご報告..... 5
 - （6）市長への手紙のお礼ごみの回収について..... 6
 - （7）プラスチックの回収について 7
 - （8）コンポスターについて 7
 - （9）段ボールコンポストの基材について 7
 - （10）二酸化炭素削減量について 8

意見交換の概要

(1) 段ボールコンポストの周知に

- ・ 燃やせるごみの目標数値55,000tは、グラフから見ると、目標は達成されているが、今後はどうするのか。
- ・ 段ボールコンポストを行おうとするときは、どのようにしたらいいのか資料がない。市の方でまとめてほしい。
- ・ 段ボールコンポストを実施していくうえで、困ることについて皆さんに周知してほしい。
- ・ 2年前から段ボールコンポストを実施しているということを知らなかった。周知する必要があったのではないか。市としては、今後どのように取り組む人を増やしていくのか教えてほしい。

加藤市長

- ・ 可燃ごみは、目標値である55,000tよりは下回っている。ごみは少ないに越したことはない。しかし、どういうペースで減らしていけるか、やみくもに設定はできないので、量の多い生ごみについての第1回目の実験期間の集計を盛り込んだうえで、今後の目標数値を見極めていきたい。
- ・ 限られた予算で1,000件分の段ボールコンポストのセットを作らせていただいた。現在は、基材が限界に近づきつつあるので、その基材の交換をしている。今年度に登録をしていただいている800件を超える方は、ずっと続けていただけるよう準備をしている。その方たちをどうするかを内部で話し合っている。手持ちの予算を使い、基材を最大限に活かしていきたいと考えている。
- ・ 段ボールコンポストを実施していくうえで困っていることは、先ほどサポーターの皆さんのあいさつの中でお話があった。どの方もクリアされているようだ。
- ・ 2年前からの実施についてだが、市として取り組み始めたのは今年の春からで

ある。笠原氏は、個人的に関心を持って取り組みをされていたので、ご理解いただきたい。

環境部次長

- ・ たくさんの方から段ボールコンポストを始めたいとの話がある。また、段ボールコンポストに取り組んでいる方から245件のアンケートを取ったところ、困ったことで1番多かったのは、「温度が上がらず困っている」が96件。2番は、「虫が湧いてしまった」が69件だった。ほとんどの方が、においは気にならないとのことだった。「少しでも協力したい、これからも続けたい」という意見が多かった。
- ・ この度2回目の基材をお配りしたが、まだ基材が残っているので、3月までに残っている基材をお分けし、協力していただければと思っている。
- ・ これから件数を増やすかについては、予算を審議しなければいけないが、今年1,000件、来年1,000件を予定している。だんだんと増やしていきたい。笹村さんのおっしゃるとおり、800件のうち400件の成功率があれば、来年さらにアンケートをいただいて、解決することで成功率が上がっていくと思う。
- ・ 段ボールコンポストの周知については、11月1日号で特集号を予定しているので、段ボールコンポストの良さ、ステップを皆さんにお知らせしていきたいと思う。

笹村氏

- ・ 夏場になって虫が湧いて困ったという方がいるようだ。慣れてくればその虫もかわくなる。虫を出さないで管理することもできる。私の家では、虫は出たことはない。においで困ると思っていたが、90%以上の方がにおいは気にならないという回答だった。

(2) 段ボールコンポストの取り組みについて

- ・ ごみの処理の仕方に良いものがあるのはわかったが、疑問がある。生ごみの量が37%というのには信じられない。私は、生ごみをほとんど出したことがない。木、草、葉は生ごみの37%に入っているのか。
- ・ 自分の家では庭の草を刈ったときは庭にまく。多いときは草刈で刈った後、45Lの袋3つに詰め、ごみには出さずに太陽であたためると土に戻る。木を切ったときは処理できないので、ごみとして出す。草は土をかぶせるとミミズが増える。土に戻っていることがわかる。
- ・ 段ボールコンポストの取り組みは、20万人の人口に徹底してもらいたい。段ボールコンポストのやり方のパンフレットを作成し、全家庭に配ってほしい。取り組み後、データを取り、前後の比較をしてほしい。
- ・ スーパーに買い物に行くと、プラスチック容器ばかりである。プラスチックのごみは2週間に1度なので、ごみ収集のバランスを考えてほしい。

加藤市長

- ・ 村上さんのように土に戻せる方は恵まれている。この取り組みを定着させるには課題が多い。今取り組んでる皆さんはデータを取って行っているので、どのくらい堆肥化できたか、量的なものも把握できるので、ごみの減量も定量化できる。
- ・ 生ごみの堆肥化は、1月で10kg 足らずで各家庭ごとにばらつきはあるが、土に戻そうというモチベーションをお持ちの方ならばどなたでもできるので、どのように取り組むか、サポーターの皆さんに相談しながら研究していく必要がある。
- ・ 段ボールコンポストの取り組みを行うと、生ごみが出なくなる。また、他のごみも減っていくので、定着化させていこうと考えている。プラスチック回収の頻度については検討していく。

環境部次長

- ・ 生ごみの37%に木や葉は入っていない。

- ・ 段ボールコンポストの取り組みを全市内に伝えていくことについては、あらゆる情報を集約して、どのように伝えて、どのように参加してもらえるのか、小田原ならではのものを作っていきたい。

(3) ごみの減量化の入り口を段ボールコンポストに絞らないでほしい

- ・ 10年間生ごみの減量化に取り組んでいる。ずっとEM処理をしている。水分を含んでいるものはごみとして出すが、それ以外の生ごみは出さない。
- ・ 段ボールコンポストには敬意を表すが、段ボールコンポストは消滅型。生ごみ堆肥化検討委員会設置要綱第一条には、生ごみを生かすために地域循環家庭循環の仕組みを構築すると書いてある。段ボールコンポストの堆肥化は1割、2割で循環のパイプが細くなるので、その選択は残念である。10kg だったら10kg、20kg だったら20kg で循環できた方がよい。生ごみ堆肥化の入り口を段ボールコンポストに絞らず、色々なものにした方がよい。
- ・ 段ボールコンポストの堆肥量では、家庭菜園を行っている人には足りない。

加藤市長

- ・ 様々な資源化の手法がある中で、市民が生ごみを身近に考えることができる、お庭があるお宅、ないお宅でも取り組めるなど、様々なことを考えて、段ボールコンポストをメインに実験していこうとしたものである。
- ・ 生ごみの資源化をどのように進めていくかはこれからの課題である。小田原は都市化が進んで、耕地が十分でないため、堆肥化しても戻せる耕地があるかは疑問である。今後、どのような手法を選択して、バランスを取っていくかが課題である。
- ・ 検証の場として、フラワーガーデンを使ってほしい。来年度から指定管理者の導入が始まるので、別のバックヤードでは、グリーンライフサークルの方と苗作り、花と緑のまちづくりを視野に入れた活動をずっと行っていく。活動の拠点として、また今回の取り組みの成果を持ち込んで、まちの中に取り込んでいきたいと考えている。

環境部長

- ・ 生ごみの減量化が図られなかったという意見だが、生ごみの堆肥化は20万人規模の都市では成功事例はない。先進市を見てもうまくいっていない。このことからタブー視されてきた。
- ・ 平成23年度から新総合計画が始まるので、取り組みを強化していきたいと考えている。生ごみを資源化すればごみ処理経費が減るなど、相乗効果も期待できる。

(4) ごみの回収について

- ・ ごみ回収は大変ありがたい。我が家で毎日草むしりをしているが、1日45Lで5～10袋が出る。週2回収に来てもらっているが、1回3袋までしか出せないなので、乾燥させて庭で燃やしている。女のわたしが一人で土に埋めることはできないので、回収方法の改善と生ごみの利用について検討してもらいたい。

加藤市長

- ・ ご自宅の草の処理には限界がある。山室さんは、年中お宅の草花を地域の方々に開放されていて、私も何度かお訪ねしたことがある。

環境部長

- ・ 剪定枝は、直径30cmの束にして3つまでとなっている。この剪定枝の利用については、再資源化にまで至っていない。剪定枝チップ機の貸出制度を行っているので、詳しくはお尋ねいただきたい。

(5) NPO堆肥化協会に参加した際のご報告

- ・ 8月23日にNPO堆肥化協会「全国生ごみ交流会」に参加したので、報告を

させていただきたい。

- ・ 市が率先して堆肥化する取り組みをしている事例は、大変少ない。小田原はまれにみる都市である。
- ・ 相模原市では100人、リーダー8人で段ボールコンポストを実施している。これに比べ小田原市は800人。他の自治体では参加する方は大変少ない。市長が堆肥化することを公約し、800人が段ボールコンポストに応じたのは誇りに思う。
- ・ 小金井市では、電動生ごみ処理機の作った乾燥生ごみを市で集めている。電動式が良いと1,000人以上が応じ、野菜を作っており、小金井市の循環が出来ている。生ごみの資源化には色々な方法があり、選択肢がある。台所にいるのは主婦の皆さんなので、女性に投げかけていきたい。

加藤市長

- ・ 山形県長井市では、家庭の主婦の人たちが率先して協力し、都市部の世帯の人が生ごみを専用のバケツに入れて、燃せるごみの日とは違う日に出し、それと運搬車で回収、堆肥化センターに運んでいる。その生ごみからできた堆肥により育てた野菜を市民が買うことで、堆肥化・資源化の循環を家庭で味わうことが出来るという、難易度の高い挑戦をしている。
- ・ ごみを分別しないで袋に入れて出し、特殊なラインの上で、機械で分別しようとした市もあると聞いたが、その方法は、市民のハードルが低い。段ボールコンポストは、市民の皆さんにとっては手間の掛かるやり方だが、合理的でコストがかからない取り組みである。誇りに思っしてほしい。続けていける知恵をどうやって出せるかが今後の勝負になっていく。また、女性の知恵をどうやって出せるかも勝負になっていく。知恵の出し合いをお願いしたい。

(6) 市長への手紙のお礼ごみの回収について

- ・ この場をお借りして、市長にお礼を言いたいと思いやってきた。市長への手紙に丁寧に回答してもらった。ありがたい。

加藤市長

- ・何かありましたら、またお手紙をいただければと思う。

(7) プラスチックの回収について

- ・プラスチックの回収を増やしてほしいという意見に反対である。資源ごみという名前が付いているように、牛乳パックや新聞紙や缶はお金が貰えるリサイクルである。トレイは購入したお店に戻してほしい。お店は自分のお金を払ってリサイクルするので、なるべくトレイを減らしていくようになる。ぜひ、プラスチックの回収を増やすのはやめて欲しい。

(8) コンポスターについて

- ・10年位前、生ごみを分別するコンポスターを2つ買った。それ以来、生ごみを出していない。発酵剤をいれて1年くらいたつと堆肥化する。コンポスターはまだどこかで売っているのか。

環境部長

- ・コンポスターは、農協とタイアップして、安く提供させてもらい、ごみ減量作戦の一環として行ってきた。現在も、農協で取り扱っている。

(9) 段ボールコンポストの基材について

- ・段ボールコンポストはどのくらいの費用でできるのか。

環境部次長

- ・基材は、300から400円。売価は500円である。段ボールは170から200円。スーパーで無料でもらえる。温度計は200円くらい。シャベルは100円ショップで売っている。不織布は75～100円だが、これは大量に

買っているなのでこの値段になる。

- ・ 本日、段ボールコンポストを10個ほど持ってきたので、登録をしてください。くださった方に配布する予定である。

(10) 二酸化炭素削減量について

- ・ 段ボールコンポストを1年前から始めている。自分は、段ボールコンポストに99.3kgを投入した。生ごみを燃やすのには、1kgあたり30円くらいかかるという。私は2,979円、市の節約に貢献したことになる。また、地球温暖化は二酸化炭素の削減量が重要だと思うが、環境家計簿で積算すると38.6kg削減したことにもなる。異常気象も二酸化炭素が影響しているので、そのような点からもPRして事業を進めてほしい。

加藤市長

- ・ 非常に貴重な観点である。約3,000円の浮いたお金を地域の環境整備に回すことができる。二酸化炭素の削減量換算もできるので、メリットとしていけるようなモデルも検討したい。具体的なデータ把握を続けてほしい。